

2022年度 自己評価結果公表シート

学校法人 常楽寺学園 ほづみあそびまなびの森

1. 本園の教育目標

[保育目標] 自分らしさを発揮しながら 豊かな創造性や感性をもち やろうとする力や向かう気持ち
あきらめずに達成する力が強く 人とつながる喜びを知る人になる

[保育方針] そのままの姿を受けとめよう たくさん抱きしめよう たくさんの失敗ができる場所にしよう
「ホンモノ性(学びの対象・人としてのあり方)」を大切にしよう
すべての人の違いは豊かさであり 同じ価値の存在として認めよう
一人ひとりの個性を尊重しよう

[まわりの大人が大切にしたいこと]

子どもを中心として それを取り巻く大人たちが 支えや学びの共同体になろう
子どもを生まれた時から 幅広い分野で発達する 生きた人間として見よう
子どもたちに人生の魅力を語ろう
子どもの成長や発達を喜び合い 協力し合いながら成長しよう
大人も子どもも 豊かな安全基地をもち 愛着を安定させよう

2. 本年度、重点的に取り組む目標・計画

園地拡張及び新園舎を建設することにより「探求プロジェクト型保育」の充実や自園調理の実施、長時間保育や2号認定の受け入れを豊かにする。また、保育の長時間化による愛着不安への対策や配慮を目標とする

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

【前年度結果報告】

評価項目		取り組み状況
新型コロナウイルス感染症への対策	A	看護師をはじめ、全職員で徹底した対策を行うことができた。今後は子ども達のコミュニケーション能力等に影響がでないようにマスクをはずすなどの工夫をしていきたい。行事等についてはできる限り実施する方針である。
2号認定の増員について	A	2号認定の定員増を予定どおり達成することができた。今後は保護者のニーズを調査しながら弾力化も含めて検討していきたい。幼稚園教諭の求人についても順調に採用することができた。 新園舎では、長時間の保育でも過ごしやすいように工夫をしているため、子ども達や保護者、教職員にとって良い環境づくりを心掛けたい。
新しい幼児教育に向けて取り組む	B	幼稚園教諭達の努力により、新しい幼児教育の土台となる「探求プロジェクト型保育」を商標登録することができ、今年度は園の名称である「あそびまなびの森」についても商標を登録することができた。 しかしながら、新型コロナの影響もあり、制限することも多かった。次年度では、園舎を建設し、さらに豊かな保育・幼児教育を実践していきたい。
給食の質向上を図る	B	移転に伴い自園給食に切り替える予定ではあるが、工事の遅延により次年度に再掲する。栄養士や調理員はすでに採用するなど準備は順調である。
園バスの廃止について	A	新型のハイエースバスに変更することができ、安全面や感染症対策は向上した。バスを運転するための免許についても職員内で取得するなど、いずれ訪れるであろう大型免許取得者減少への対策を少しずつ進める予定である。

4. 総合的な評価結果

A	<p>新型コロナの対策については、全職員で徹底した対策を行うことができたといえるが、濃厚接触者に該当された場合の配慮やケアをさらに検討する必要がある。</p> <p>2号認定の増員については、計画通り9名から20に増員することができたため保護者のニーズには答えることができた。今後も、幼稚園教諭の確保が必要となるため、良い人材を確保するために尽力していく。</p> <p>給食については、移転後に自園給食に切り替える予定であり、すでに栄養士や調理員を採用するなど体制は整えることができた。給食機材や調理器具なども手配済みであり、献立等の書類面や食材等の準備を進める予定である。</p> <p>園地拡張による移転や園舎の建設については、大阪府でも初めての学校法人の幼稚園移転や園舎に新しいアイデアを盛り込んだこともあり、大阪府や豊中市との許可等に時間を要した為、大幅に遅延をした。資材の高騰などもあり予想以上に建設費が上がっているが、建設業者等の協力を得ながら確実に実行していきたい。</p> <p>園バスについては、老朽化した汽車型のバスから新型のハイエースバスに変更することができ、安全性や感染症対策も向上したため、予定通り実行することができた。</p> <p>今年度の保護者アンケートは、グーグルフォームにより電子化を行った。その結果、調査参加者は例年より少なかったが、例年通り調査を行うことができた為、次年度の計画に反映したきたい。令和4年度については、新型コロナの影響も少なくなっていることから保護者の代表とともに学校関係者評価会議を行う予定である。</p>
---	---

評価 (A・・・十分に成果があった B・・・成果があった C・・・少し成果があった D・・・成果がなかった)

5. 今後取り組む課題

課 題	具体的な取り組み方法
園地拡張による移転や新園舎建設への対策	園地拡張により移転をすることになったため、公園などの環境が異なる事が予想される。車両などの交通量が多くなるため、事故等がないように対策をする。 新園舎を建設することにより、面積が広くなることや保育室やアトリエ、ホールなどの環境が変わるため、全職員で入念に話し合いをしていきたい。
新型コロナウイルス感染症への対策	自粛が少なくなるなど、行動が活発になるにつれて感染者も増加することが予想されるため園内でも対策を検討していきたい。また、子ども達のコミュニケーション能力に影響がでないように、マスクを外すことなどを慎重に検討していきたい。
新しい幼児教育に向けて取り組む	令和2(2020)年度から異年齢保育は行うことができた。探求プロジェクト型保育をさらに深めて実践する予定だが、子ども達の育ちの姿をしっかりと見取りながら実践していく。 特性のある子ども達への配慮やプログラムにおいても、得意な才能を伸ばせるような環境やプログラムを検討する。
給食の質向上を図る	新園舎建設後に自園給食が始まるため、採用した栄養士や調理員と検討をする。できる限り食材にもこだわりたいため、生産者の方々とコンタクトをとり、良い食材を確保していく。 また、栄養士とともに食への興味を豊かにするために、畑などの菜園や味噌づくりなどの食育にも力をいれていきたい。

6. 学校関係者評価委員会の評価

--

7. 財務状況

公認会計士監査により適正に運営されていると認められている。
